

## 「ハッ場ダム建設事業の検証に係る検討報告書（素案）」に対する関係住民の意見聴取

平成 23 年 11 月 8 日（火）14:00～15:20

国土交通省ハッ場ダム工事事務所川原湯総合相談センター

発言者：意見発表者 9

・皆さんこんにちは。沼田からまいりました、●●●●と申します。ハッ場ダムをストップさせる群馬の会を主催しております。私がハッ場ダムのことに関わり始めたのは、10 数年前に●●●●さんのお話を聞く機会があり、それ以来、年に何度も川原湯に通い、色々な方の話を聞いたり、色々なことを知るにつけ、何でこんなにおかしなことが起こっているんだろうか、そういう気持ちがどんどん強くなって、今、本当に大詰めにきているときに、非常に大きな戸惑いを持っております。内容的なことを申し上げますと、今回の検証というのは、民主党政権になって、人口減少や少子高齢化、莫大な財政赤字という三つの大きな不安要因を持っている我が国の現状を考えて、税金の使い道を大きく変えていかなければならない、そういう認識に基づいて始められたことだと思います。そして、「できるだけダムに頼らない治水」への政策転換を進めるという目的で設置されたものと理解しています。しかしながら、報告書を見る限り全くその目的に沿った検証が行われたとはいえないと思います。自民党時代には、政・官・業の癒着があり、国交省の天下り先の特殊法人がダムの事業に大きな関わりを持っているということで、なかなか難しいと思っていたことが、民主党政権になって、なんとか、本当の住民の声で見直しをしてもらえるのではないかという期待をしていたのですが、今のところその期待が消えかけるのかと心配をしております。

まず、利水の観点から申し上げますと、今までの 2 人の方もおっしゃいましたけれど、東京都では、1992 年度の最大配水量 617 万立方メートル、1 日にですね、であったのが、2010 年度には 430 万立方メートルになっております。先ほどもでましたけれど、多摩地域で長年使われてきた地下水約 40 万立方メートルも水道水源としてカウントされていません。200 万以上余っているわけですね。それを東京都が持っているからといって、東京都の都議会でも見直しの成果が決議されたと思うんですが、それも一切都知事がとりあげようとしなくて、東京都が持っているそのままを受け止めて、そこが検証されていない。群馬県は水源県であり、豊富な地下水に恵まれているのに、前橋や太田市では、おいしい地下水が捨てられているんですね、今。そして、ハッ場の水である表流水の割合が高まっています。前橋市民の方に聞くと、「水道水がまずくなった。」という声を多く聞きます。それを高いお金を出して買うという、そういう現状があるわけです。そういう意味でも、群馬県の利水量についても、もっときちんと検証するべきだと思います。それに、赤城村でですね、今は渋川市に合併されましたけれども、村議会で、第二県央水道に入らないという決議をしているんですけれども、その配水計画はずっと 0 なんですが、最後にいつポンとあがるんですね。そういうこと、ひとつひとつもっと、どれくらいの水が必要なのか、地下水はどれくらい利用できるのか、地盤沈下はどれくらいで収まっているのか、そういうことをきちんと検証してもらいたい、本当に、そう思うんですね。そういう検証が、一切されていない。そこを私は非常に悲しく思います。先ほどもでましたけれど、そのような各都県から出されたおぎなりの計画に沿って、富士川から水を引いてくるとか、あり得ないことだと思うんですね。そういうような利水代替案と比較しているわけですが、各都県の水需給計画を、現実に即して見直してほしい。

大きな声で言いたいです。

それから、洪水調節の観点からの見直し。関東地方整備局が示した基本高水流量、目標洪水流量、河道対応流量、飽和雨量、治水効果などの数字が納得のできる理由がないまま変えられているんですね。これをみると、本当に、八ッ場ダムを造らんがためにやっていることとしか思えないです。例えば、飽和雨量についてですけれども、飽和雨量を大きく設定するほど降雨の流出が小さくなるわけですね。国交省は初めのうちは、ずっと 48 ミリメートルで変わらないといていたのが、昨年 10 月 12 日の衆議院の予算委員会で、河野太郎議員の質問に答えて、馬淵国交大臣が、「1958 年は 32 ミリメートル、1982 年は 115 ミリメートル。」とか、まるでそれまでと違う数値をいっているわけなんですよ。こういう数字の出し方、そういう形で計算をされたものというのは、まったく住民からは信頼ができないというふうに思います。仮に基本高水流量を 22,000 立方メートルとすると、今後、利根川の上流域にさらに 5~15 基のダムを建設しないと、利根川の治水政策が完結しないことになるんですよ。それって可能なことなんですか。実際に即した検証をしていただきたいと思います。先ほどもでましたけれど、台風 12 号、今年の夏、和歌山に記録的豪雨をもたらしましたが、想定を超える豪雨により 3 つのダムは洪水調節機能を失って放流し続けたわけですね。その前にも、ダムの放流による被害というのもありまして、こちででていると思います。そういうこともあわせて検証してもらいたいと思います。現地の安全性について。ダム予定地の脆弱な地質により工事が難航しているところが多い。先ほどもでましたけれど、2007 年 12 月には、トンネルを掘削中に落盤事故があって、作業員が亡くなっています。昨年 9 月には、暫定供用を開始したばかりの付替国道で落石事故が二度もあり、通行止めになっています。今年の 8 月 7 日の集中豪雨により、この辺ですね、この裏にもその跡が残っているから皆さんよくおわかりだと思えますけれども、大規模な土砂災害が発生しています。それだけじゃなくても、川原畑の代替地に行くと、本当に無数のアンカーボルトが打ち込まれていて、そこが、錆びていて、何度も工事をやり直している。そして、青いビニールシートがかけられている。そのことを、たぶん地元の方はご存じだと思うんですよ。不安ではあるけれども、国交省が今まで安全だと言ってきたからという、そういうことで、納得をさせようとしているのかなというふうに考えます。最後に、奈良県の大滝ダムでは、住民が地すべりの危険性を言い続けていたのに工事が進められ、2002 年 8 月にダム堤体が完成しましたが、試験湛水中に白屋地区で地割れが発生し、38 戸が全戸移転しました。その後も地すべりの危険性が判明し、いまだに対策工事が延々と行われています。裁判も住民側が勝っています。2008 年 6 月に起こった岩手・宮城内陸地震によって大規模な地すべりが発生した荒砥沢ダム、また地すべりが頻発するために未だに運用できない埼玉県の高滝ダム、東日本大震災で決壊して 8 人の犠牲者を出した須賀川ダムなど、ダムには負の側面というのがあるんですよ。そういうことについて一切検証がされていないのではないのでしょうか。一番最初に、「抜本的な政策転換を進めるための検証」と言ったのに、まったく、今までのおざなりの検証しかされていないというのが私の感想です。まだ、日本の国民の方、多くの方々は、政府のいうことは間違いないと思っている人が多いんですね。それで、検証で八ッ場ダム案がいいんだということが出たというのは、ものすごく大きな影響を与えていると思うんですよ。ただ、そんな多くの方々が、検証の隅々まで見ませんから、本当にこの検証がどんな検証かっていうことが、多くの方にわかったときに、驚かれるんじゃないかと思うんですけれども。あと国の方が、どのように考えていらっしゃるか、疑問に思います。このような意見陳述、今日が最後ですけれども、多分、意見陳述、反対の方が多と思うんですよ。でも、これが住民の、国民の多くの方々の声だと思います。賛成の方はどうしてここでちゃんと発表されないのでしょうか。是非、公開の場でですね、事業主体の国交省でない第三者機関、事業主体がやる検証というのは、事業をやっているところですから、やっぱり事業を進め

るような方向しか出ないと思いますよ。そうじゃない第三者機関で、これまでの河川行政に批判的な専門家も加えて、公開の場で、是非検証してもらいたい。これらの声をただ聞き置くだけではなくて、きちんと検証していただきたい。これ以上、将来に禍根を残すダムを造るのはやめてもらいたい。そうしないと、日本の将来は本当にどうなってしまうのかなって思います。非常に心配です。是非、よろしくお願いします。

以上